

給湯設備に係るエネルギーの効率的利用

	項目	措置状況	配点	得点	措置の概要	備考
(1)配管設備計画	循環配管の保温	すべてについて保温仕様1を採用	30	10	すべてについて保温仕様1、2、3のいずれかを採用	1 「循環配管」とは、給湯配管のうち行き管と還り管が組み合わされた副冠式の配管をいう。 2 「先止まり配管」とは、給湯配管のうち行き管だけの単管式の配管をいう。 3 「一次側配管」とは、熱源と給湯用熱交換器を循環する熱媒のための配管をいう。 4 「保温仕様1」とは、管径が40mm未満の配管にあつては、保温厚が30mm以上、管径が40mm以上かつ125mm未満の配管にあつては、保温厚が40mm以上、管径が125mm以上の配管にあつては、保温厚が50mm以上としたものをいう。 5 「保温仕様2」とは、管径が50mm未満の配管にあつては、保温厚が20mm以上、管径が50mm以上かつ125mm未満の配管にあつては、保温厚が25mm以上、管径が125mm以上の配管にあつては、保温厚が30mm以上としたものをいう。 6 「保温仕様3」とは、管径が125mm未満の配管にあつては、保温厚が20mm以上、管径が125mm以上の配管にあつては、保温厚が25mm以上としたものをいう。 7 「保温材」とは、熱伝導率(単位 1m1度につきW)が0.044以下の材料をいう。
		すべてについて保温仕様1又は保温仕様2を採用	20			
		すべてについて保温仕様1、保温仕様2又は保温仕様3を採用	10			
		上記に掲げるもの以外	0			
	循環配管に係るバルブ及びフランジの保温	バルブ及びフランジの全数を保温	10	10	全数を保温	
		バルブ及びフランジの半数以上を保温	5			
		上記に掲げるもの以外	0			
	一次側配管の保温	すべてについて保温仕様1を採用	6	2	すべてについて保温仕様1、2、3のいずれかを採用	
		すべてについて保温仕様1又は保温仕様2を採用	4			
		すべてについて保温仕様1、保温仕様2又は保温仕様3を採用	2			
		上記に掲げるもの以外	0			
	一次側配管に係るバルブ及びフランジの保温	バルブ及びフランジの全数を保温	2	2	全数を保温	
		上記に掲げるもの以外	0			
	循環配管の経路及び管径	すべてについて空気調和を行う室又は当該室に囲まれた空間に設置し、経路を最短化、かつ、管径を最小化	3	1	経路の最短化、管径の最小化を図っている	
すべてについて空気調和を行う室又は当該室に囲まれた空間に設置		2				
すべてについて経路を最短化、かつ、管径を最小化		1				
上記に掲げるもの以外		0				
先止まり配管の経路及び管径	すべてについて経路を最短化、かつ、管径を最小化	1	1	経路の最短化、管径の最小化を図っている		
	上記に掲げるもの以外	0				
一次側配管の経路	すべてについて空気調和を行う室又は当該室に囲まれた空間に	1	0	外気に面する部分もしくは屋外に設置している箇所がある		
	上記に掲げるもの以外	0				
(2)給湯設備の制御の方法	循環ポンプの制御の方法	給湯負荷に応じて流量制御又は台数制御を採用	2	0	その他の制御を採用	
		給湯負荷に応じて給湯循環を停止させる制御の方法を採用	1			
		上記に掲げるもの以外	0			
	共用部の洗面所給水栓の制御の方法	共用部の洗面所の給水栓の80%以上に対して、自動給水栓を採用	P1	0	共用部の洗面所の0.0%に対して、自動給水栓を採用	
		上記に掲げるもの以外	0			
		シャワーの制御の方法	P2			0
上記に掲げるもの以外	0					
(3)熱源機器の効率	熱源機器の効率が90%以上	15	5	効率82.0%	「熱源機器の効率」とは、定格加熱能力をエネルギーの種類に応じて別表第3の数値により熱量に換算した消費熱量で除した値をいう。	
	熱源機器の効率が85%以上90%未満	10				
	熱源機器の効率が80%以上85%未満	5				
	熱源機器の効率が80%未満	0				
(4)太陽熱を熱源として利用した場合	太陽熱を熱源として利用した場合	H	0	太陽熱は利用しない	H：太陽熱利用熱量を給湯負荷で除した値に100を乗じて得た値	
(5)給水を予熱した場合	給水を予熱した場合	W	0	給水の予熱は行なわない	W：予熱により上昇する水温の年間平均を使用湯温と地域別給水温の年間平均の温度差で除した値に100を乗じて得た値	
	ポイント(点数の合計)	(A)	31			
	補正点	(B)	70			
	ポイント(A)+(B)		101			

\* 一の項目に係る措置状況が二以上に該当するときは、当該点数のうち最も高いもの。